

科 目	必・選	担 当 教 員	学 年 ・ 学 科	単位数	授 業 形 態						
第2外国語C 中国語 2nd Foreign Language CI, Chinese	選	陳 梅隱 李 鵬	4 年 機械工学科 電気情報工学科 物質工学科 環境都市工学科	3	前期週4時間 後期週2時間						
授業概要	中国語の発音と基本的な文法についての勉強を通して、中国語で基本的な会話を身に付ける一方、中国の文化、風習を理解する。										
到達目標	1、中国語の発音を身につけ、日常常用単語を覚える；2、日常常用会話を身に付ける；3、中国の社会・文化・風習等を勉強することを通して中国を理解し、中国人との付き合い方を見つける。										
評価方法	前期中間試験：試験成績 80% + ノート 10% + 課題 10% 前期期末試験：試験成績 50% + 前期中間試験成績 30% + ノート 10% + 課題 10% 後期中間試験：試験成績 50% + 前期期末試験成績 30% + ノート 10% + 課題 10% 後期期末試験：試験成績 50% + 後期中間試験成績 30% + ノート 10% + 課題 10%										
教科書等	教科書：『北京コレクション』 相原茂・李貞愛 著（朝日出版社）										
内 容					学習・教育目標						
第 1 週	オリエンテーション／ 発音 1 声調；単母音；複母音				D						
第 2 週	練習・ドリル／ 発音 2 声母表・無気音と有気音・そり舌音				D						
第 3 週	消える o と e・同じ i でも違う音・練習・トリル／ 発音 3 鼻音・練習				D						
第 4 週	また消える e・ドリル／ 発音 4 声調の変化・「不」と「一」				D						
第 5 週	軽声・声調の組み合わせ・練習／声母表ドリル				D						
第 6 週	発音 5 声調とピンイン綴りの規則・声調変化・-n と -ng / 復習・挨拶の言葉・教室用語				D						
第 7 週	名前の読み方と自己紹介文章のつくり／自己紹介の発表				D						
第 8 週	発音の総合復習／ 第1課 文法 1、2・試験の説明										
第 9 週	前期中間試験の説明／文法 3、4、5				D						
第 10 週	単語・本文・ドリル／文化の森・会話の練習				D						
第 11 週	第2課 文法 1、練習／文法 2、3				D						
第 12 週	単語・本文・ドリル／文法の森・会話の練習				D						
第 13 週	第3課 文法 1・文法 1 の練習／文法 2、3				D						
第 14 週	文法 4・単語・本文／ドリル・文化の森・会話の練習				D						
第 15 週	総合練習・小テスト／小テストの説明・試験の説明										
第 16 週	前期期末試験の説明・第3課の会話の練習				D						
第 17 週	第4課 文法 1、2・音楽鑑賞				D						
第 18 週	文法 3「量詞」と練習				D						
第 19 週	文法 4・単語・本文				D						
第 20 週	ドリル・文化の森・会話の練習				D						
第 21 週	第5課 文法 1、2				D						
第 22 週	「能」と「会」の区別と練習				D						
第 23 週	文法 4・試験のための説明と練習				D						
第 24 週	後期中間試験の説明				D						
第 25 週	文法 3・単語・本文				D						
第 26 週	ドリル・文化の森・会話の練習				D						
第 27 週	第6課 文法 1、2				D						
第 28 週	文法 3・練習				D						
第 29 週	文法 4・単語、本文				D						
第 30 週	ドリル、文化の森・会話の練習・試験の説明				D						
(特記事項)		JABEE との関連									
		JABEE	a	b	c	d-1	d-2	e	f	g	h
		本校の学習・教育目標	A	A	C	C	C	B	D	C	B

1. 合格ラインについて、特に記載の無いものは、60点以上を合格とします。

2. 定期試験について、特に記載の無いものは、評価配分を均等とします。(【例】年4回定期試験を実施した場合の各定期試験の評価配分は、特に記載の無いものは、25%ずつになります。)

中国語入門 ガイダンス（４年）

テキスト：相原茂・李貞愛 著 『北京コレクション』（朝日出版社）

内 容：

中国の経済発展によって中国を訪れる観光客が増えている一方、日本企業の進出も増えてきている。言うまでもなく、中国人や中国企業と接触する際に言葉での交流は重要であるが、相手国の風習や、習慣および考え方についての大体の理解があれば、観光であってもビジネスであってもプラスとなるだろう。

したがって、この授業では日常生活でよく使う会話を身につけることを目標とし、発音と基本的な文法を勉強するとともに、中国の文化、風習を紹介し、面白い中国語の勉強を通して、中国語の学習に対する興味を起こし、単語の量を増やすことを望んでいる。時間の余裕があれば中国映画の鑑賞を実行し、中国の文化をいろいろな角度から知ってもらいたい。大人数のクラスであるが、今年は会話の練習を増やし、会話の口頭試験も増やす予定である。

具体的には以下のように授業を行いたい。

授業の 90 分のうち 60 分で会話を中心とする授業を行う。前期は週に二回の授業を利用し、前期中間試験まで発音を基本とした授業を行う予定である。よく知られているように、中国語の発音は多種類であり、アクセントも厳しく分かれているため、発音が似ていながら意味がまったく異なる言葉がたくさんある。例えば、拼音（日本語の平仮名、片仮名のようなもの）が同じ shi zi でも、アクセントの違いによって、「獅子」、「小石」、「柿」の三つの意味がある。これに十分に気をつけないと大きな誤解を招く危険がある。したがって、この授業では練習と復習を加え 14 回（7 週）をかけて発音の授業を進めたい。

具体的には教科書にしたがって、「声調、単母音、複母音」、「声母表、無気音、有気音、そり舌音」、「鼻音、またしても消える e」、「声調の変化」の順番に進みたい。発音の習得を進める同時に、単語と簡単な挨拶を少しずつ増やしていく。授業の次の週は練習とし、生徒の実習を中心とする。

後期は日常会話でよく使われている文法を中心に進めたいと思う。授業の次の週は練習とし、生徒の実習を中心とする。具体的には文法を復習しながら、会話の練習を行う。

前期と後期それぞれの残りの 30 分は「面白い中国語」と中国の文化や風習についての学習を中心としたい。日本語と中国語ではいろいろな共通点があるものの、相違点もたくさんある。たとえば、同じ漢字である「娘」だが、日本語の意味が「子供の女性の方」となっているが、中国語の意味では「母親」となっている。このような単語がたくさんあるが、よく使う単語の紹介を通して、中国語に対する興味を起こす一方、使い方を間違えないように注意してほしい。この「面白い中国語」とあわせて中国の文化、風習も紹介する。

そして、今年からは会話とヒアリングの練習も重視し、成績評価の一環として扱うので、普段からレベルアップのための努力と授業への積極的な参加が必要だろう。

評価方法：

前期中間試験：試験成績 80% + ノート 10% + 課題 10%

前期期末試験：試験成績 50% + 前期中間試験成績 30% + ノート 10% + 課題 10%

後期中間試験：試験成績 50% + 前期期末試験成績 30% + ノート 10% + 課題 10%

前後期期末試験：試験成績 50% + 後期中間試験成績 30% + ノート 10% + 課題 10%